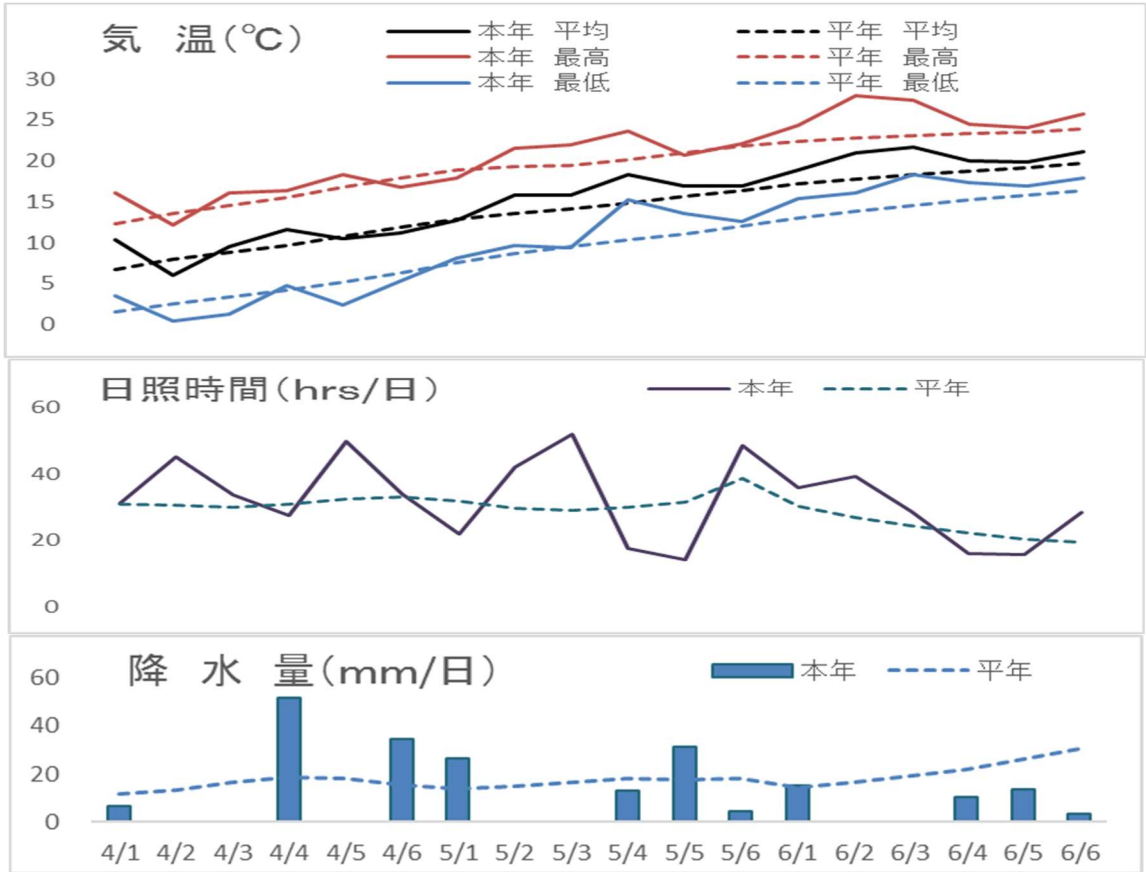


～6月は高温傾向で推移し、生育は平年よりやや進んでいる～

1 令和3年の気象(古川アメダス)



◆東北地方の1か月予報(7月3日～8月2日までの天候見通し)

- ・東北地方太平洋側では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多い。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- ・平均気温は、高い若しくは平年並みの確率 40%，低い確率 20%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率 40%，少ない確率 20%。
- ・日照時間は、多い確率 20%，平年並み若しくは少ない確率 40%。

〈向こう1か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率(%)〉

【気温】東北地方	20	40	40
【降水量】東北太平洋側	20	40	40
【日照時間】東北太平洋側	40	40	20

〈気温経過の各階級の確率(%)〉

1週目 東北地方	20	40	40
2週目 東北地方	20	50	30
3～4週目 東北地方	30	40	30

2 生育状況（7月1日）〔宮城県古川農業試験場・農業改良普及センター調査〕

(1) 宮城県古川農業試験場調査〔作況試験 ひとめぼれ〕

- ・草丈は、54.3cm で平年比 120%である。
- ・茎数は、m²当たり 620 本で平年比 101%である。
- ・葉数は、9.7 枚で平年より 0.6 枚多く、生育ステージは平年よりやや進んでいる。
- ・葉色（GM 値）は 42.2 で、概ね平年並みである。

移植日	草 丈		茎 数		葉 数		葉 色	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	平年比 (%)	本 年 (枚)	平年比 (枚)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)
5月10日	54.3	120	620	101	9.7	0.6	42.2	▲ 0.9

(2) 地帯区分別【参考】

- ・草丈は、全域で平年を上回っている。茎数は、南部平坦地帯において前回調査（6月21日）時より少なくなり、概ね最高分げつ期に達したものと推測される。葉色は、全域で平年より低下している。

県農業改良普及センター調査〔生育調査ほ ひとめぼれ・ササニシキ〕

地帯区分別	草 丈		茎 数		葉 色	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)
北部平坦	52.4	109	565	96	40.9	▲ 2.0
南部平坦	58.8	109	530	87	40.6	▲ 0.9
仙台湾沿岸	51.2	107	523	98	40.7	▲ 2.3
西部丘陵	52.6	111	537	103	41.2	▲ 3.9
三陸沿岸	51.8	119	520	92	37.0	▲ 3.9

3 今後の管理

(1) 水管理

- ・間もなく幼穂形成期（県平均の平年値は7月8日）を迎える。中干し終了後、急に湛水状態にすると土壤の還元が急激に進み、酸素不足になって根を痛めるので、中干し終了直後は走り水程度とする。

(2) 肥培管理

- ・水田で主茎を数本抜き、幼穂の発育状況を確認して肥培管理に努める。
（幼穂形成期：幼穂長 1~2mm，減数分裂期：幼穂長 3~12cm）
- ・近年は、高温傾向が多いため施肥窒素の消失が早く、葉色の低下した水田がよく見受けられるので、稲の葉色や幼穂の発育状況を確認しながら、適期に追肥作業を実施する。

◆品種ごとの追肥窒素量（kg/10a）は、以下を目安にする。

品種名	ひとめぼれ	ササニシキ	だて正夢	金のいぶき	つや姫・まなむすめ
幼穂形成期	1	-	-	1	2
減数分裂期	1	1~1.5	2	1	-

◎「だて正夢」の場合、有効茎数が少なく穂数不足が予想される場合には、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kgずつ分けて施用し、適正籾数の確保を図る。

◎「金のいぶき」の葉色は、「ひとめぼれ」に比べ淡く推移し、幼穂形成期から減数分裂期にかけて、著しく低下する。このため、減数分裂期の葉色値 (SPAD502 値) が 30 以下にならないよう、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で 1 kg 程度施用し、減数分裂期の葉色値を 30～32 程度に維持する。

(3) 病虫害防除

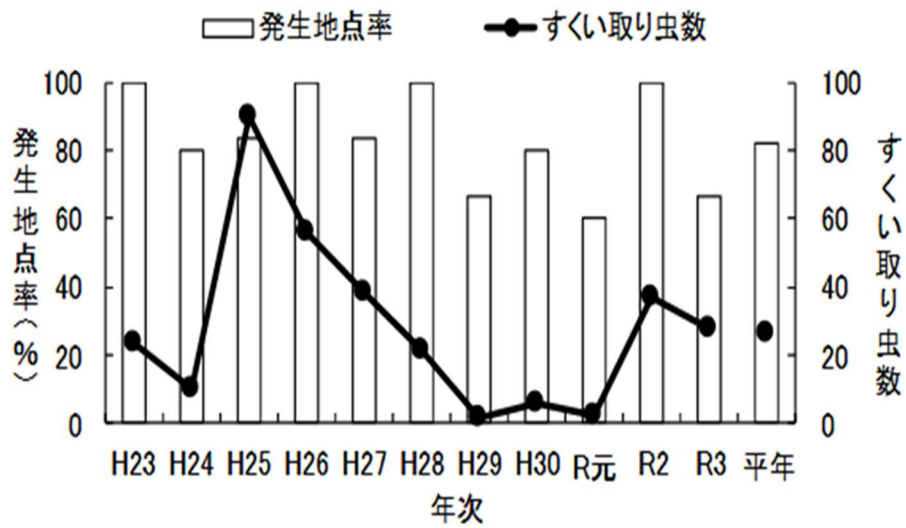
① いもち病

- ・葉いもちの発生時期は平年よりやや早い7月第半旬で、発生量は「やや多い」と予想されている(宮城県病虫害防除所 発生予報第4号)。
- ・病虫害防除所では、葉いもちの感染好適条件の出現状況について、下記のようにHPに掲載している【いもち病は平均気温が20～25℃で曇りや雨の日が多いと発生しやすくなる。●が感染好適条件】。今後、好適条件が出現しやすくなるので、水田をこまめに見回る。

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	桃生	大衡	鹿島台	東松島	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森	
6/27	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	△	—	●	—
6/29	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	●	●	—	●	—
6/30	?	—	△	—	—	—	—	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/1	—	—	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

② 斑点米カメムシ対策

- ・畦畔や雑草地・牧草地等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の増殖源となるので、7月中旬を目安に草刈りを実施する。
- ・草刈りを出穂期前後に行うと、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、出穂の10日前までに終える。
- ・6月中旬の県病虫害防除所の調査(下図)によると、水田周辺の牧草地(6地点)におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率は66.7%、すくい取り虫数は27.5頭で平年(28.8頭)並みであった。





アカスジカスミカメ
【病虫害防除所 HP より】